

2012年7月6日@東京大学
科学コミュニケーション研究会関東支部

「見失われた何か」と エスノメソドロジー

京都大学 物質－細胞統合システム拠点
(iCeMS=アイセムス)
科学コミュニケーショングループ
秋谷直矩
akiya0427@gmail.com



自己紹介

名前: 秋谷直矩 (AKIYA Naonori)

所属: 京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS=アイセ
ムス) 科学コミュニケーショングループ

専門: 社会学、とくにエスノメソドロジー・会話分析

Web: <https://sites.google.com/site/akiya0427/>

	2008以前	2009	2010	2011	2012
サイエンスカフェの ワークの研究					
企業における会議 場面の会話分析					
遠隔対話支援シス テム研究					
高齢者福祉・医療 のワークの研究					

目次

0. 活動の評価？

1. エスノメソドロジーの基本的な考え方
2. 簡単な研究事例紹介
3. 調査・分析の流れ
4. 文献・研究会情報

【メモ】

- ※本日は、多岐にわたる科学コミュニケーションのなかでもサイエンス・カフェに限定してお話します。
- ※オススメ文献は随時紹介します。
- ※話の途中での発言大歓迎です。
- ※こんなのどうですか？一緒になにかやってみませんか？

本日のまとめ

- (1) 活動を評価する前に: 私たちは自分たちがやっていることを
どれだけ知っている? 言語化できる?
- (2) 実際にやっていることの「手続き」を記述していくことが一番
遠回りのように見えて近道(大変!)
→エスノメソドロジー研究へ
- (3) 組織活動のなかにEMCA研究の組み込み可能性
→Ex. データセッション

ご連絡は秋谷まで
akiya0427@gmail.com

科学コミュニケーション 事例：サイエンス・カフェ



iCeMSカフェ「DNAを使って折り紙を織る」2010年2月13日

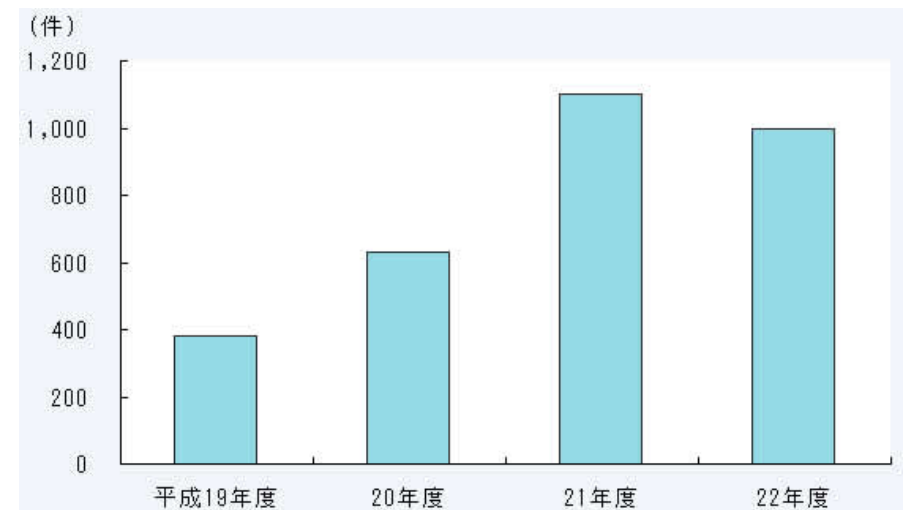
<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2010/02/13-cafe7report.html>

活動の評価

- 当初の目標は達成されていたか？
- 参加者の満足度はどうだったか？
- 今回の「やり方」の効果は？
- 「対話」の特徴は何か？
- 参加者層の属性は？

たとえば、サイエンス・カフェを見ても、そのあり方や考え方は多種多様。ゆえに、標準化した指標の作成は適切ではないかも...

団体ごとに作成することはそれはそれで重要だけど...



事例：パフォーマンス指標

・指標の作成、標準化を目指す

Ex. 図書館パフォーマンス指標 (ISO11620 ※測定はISO2789)

※パフォーマンス指標＝図書館の使命や目標に照らして、図書館サービスや活動の質、そしてそれらの有効性を評価する指標

表1 図書館パフォーマンス指標一覧表

ISO/CD11620: 2005		対応する ISO11620: 1998 及び Amd1: 2003(項番)	対応する ISO/TR20983(項番)
指標種別	指標名(★=新規)		
情報資源・アクセス・基盤	所蔵資料	要求タイトル利用可能性	B.2.2.2
		要求タイトル所蔵率	B.2.2.3
		主題目録探索成功率	B.2.7.2
		アクセス拒否されたセッション割合	B.1.3.4
	アクセス	配架の正確性	B.2.2.8(Amd)
		閉架書庫からの資料出納所要時間(中央値)	B.2.3.1
		図書館間貸出の迅速性	B.2.5.1
		★図書館間貸出(文献複写含む)の充足率 (=充足件数/受理件数×100)	
	設備	人口当たり利用者用ワークステーション台数	B.1.6.2(利用者用ワークステーション台数当たり人口)
		人口当たりワークステーション利用可能時間	B.1.6.1
		★人口当たり利用者用床面積 (=利用者用スペースの面積/サービス対象者数)	
		★人口当たり座席数 (=利用できる座席数/サービス対象者数)	
	職員	★人口当たり職員数 (=職員数/サービス対象者数)	

活動評価の問題点

・活動を評価するためには、変数を設定する必要がある

→どうやって変数を決めているか？

→活動に固有な変数をどうやって発見しているのか？

→変数決定に必要なのは、対象の深い理解、知識。さて、私たち自身がやっていることをどれだけ言語化できているか？

・私たちが自分たちの活動について知っていること、説明できること

→いっぱいあるようでそんなでない

→「実際にはやっていること」だけど、それがトピックにあがらないようなことはたくさんある (seen but unnoticed)

→「**実際にやっていること**」を知るためには、**その実際の手続きを見ていくほ**
かない

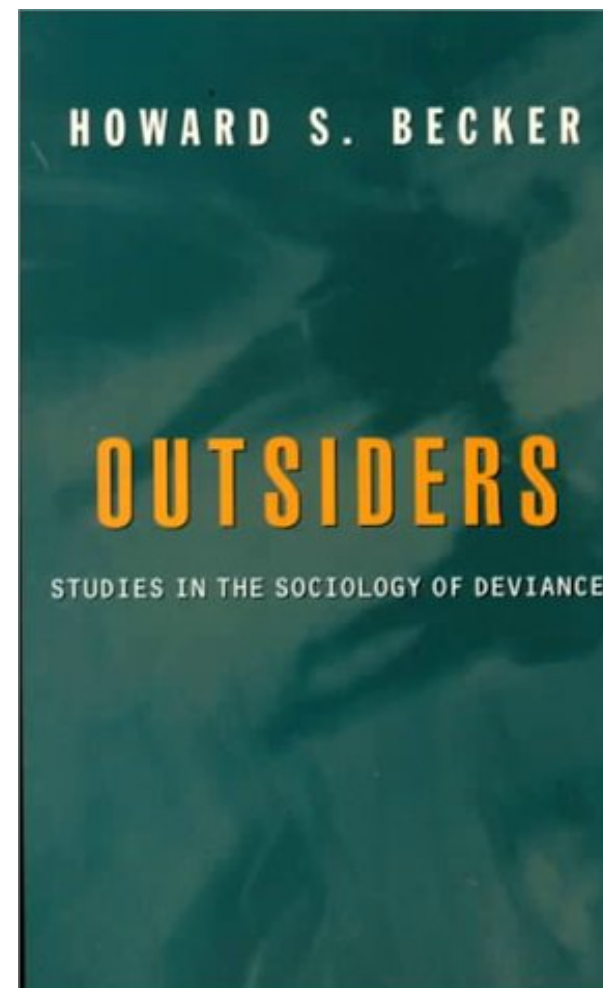
・利得

→変数を発見することができる？

→それもあるけど、「実際にやっていること」の手続きを記述していくと...

失われた何か (missing what)

「例えば、ガーフィンケルによると、ハワード・ベッカーによるダンスバンドのミュージシャンとその聴衆の研究には次のような奇妙な特徴がある。熟練したジャズミュージシャンであるベッカーは、ダンスバンドのミュージシャンが、典型的な聴衆である『古臭い人々』から距離をとろうとする言語的・習慣的実践の多くを記述しているのだ。ベッカーは、ジャズミュージシャン文化のさまざまな興味深い側面について読者に知らせているが、ミュージシャンがどのように音楽を共に演奏しているかについて決して論じないのである。共に演奏するという相互行為的で即興的な『ワーク』——それ自体で社会的現象である——が、ベッカーやその他のほかの音楽社会学者には、どういうわけか『見失われて』いたのである」
(Lynch 1993)



Lynch, M., *Scientific Practice and Ordinary Action: Ethnomethodology and Social Studies of Science*. New York: Cambridge University Press, 1993.

Becker, H., *Outsiders: Studies in the Sociological of Deviance*, New York: Free Press, 1963.=村上直之訳(2011)『完訳アウトサイダーズ』現代人文社.

エスノメソドロジーとは

H. Garfinkel (1917–2011)
エスノメソドロジー
Ethno(人びとの) methodology(方法論)

私たちが日常生活を送る際に用いている
さまざまな方法・方法論を記述していく研究

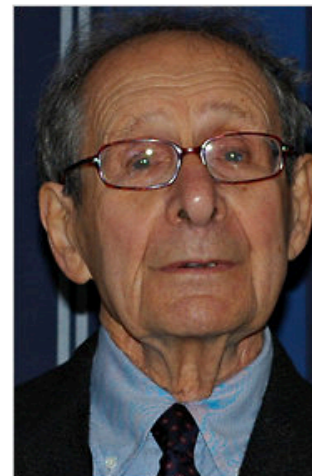
私たちの活動は、なんであれ方法的になりたっている、ということ
→だからこそ、それは観察可能である
ということ(出来事のある秩序のあるものとして見て言えること)

Harold Garfinkel, a Common-Sense Sociologist, Dies at 93

By [BRUCE WEBER](#)
Published: May 3, 2011

Harold Garfinkel, an innovative sociologist who turned the study of common sense into a dense and arcane discipline, creating one of his field's most challenging and fruitful branches of inquiry, died April 21 at his home in Pacific Palisades, Calif. He was 93.

[Enlarge This Image](#)



Jason Jimerson

Harold Garfinkel.

The cause was congestive heart failure, said his wife, Arlene.

Mr. Garfinkel was a professor emeritus at the [University of California, Los Angeles](#), where he was affiliated with the sociology department for more than half a century. By the time he became the faculty member in 1954, however, he was already concentrating on work that was in conflict with prevailing sociological theory, which focused on how societal rules and norms influenced behavior and created and shaped a social order. Mr. Garfinkel's work sought to illustrate how members of society collaborate in creating and shaping a social order.

- [RECOMMEND](#)
- [TWITTER](#)
- [LINKEDIN](#)
- [SIGN IN TO E-MAIL](#)
- [PRINT](#)
- [REPRINTS](#)
- [SHARE](#)



Via New York Times

<http://www.nytimes.com/2011/05/04/us/04garfinkel.html>

人びとの方法・方法論

人々 (Ethno) の方法論 (method)

- ・他人と一緒にいるやり方 (社会秩序)

- ・世界の把握のやり方

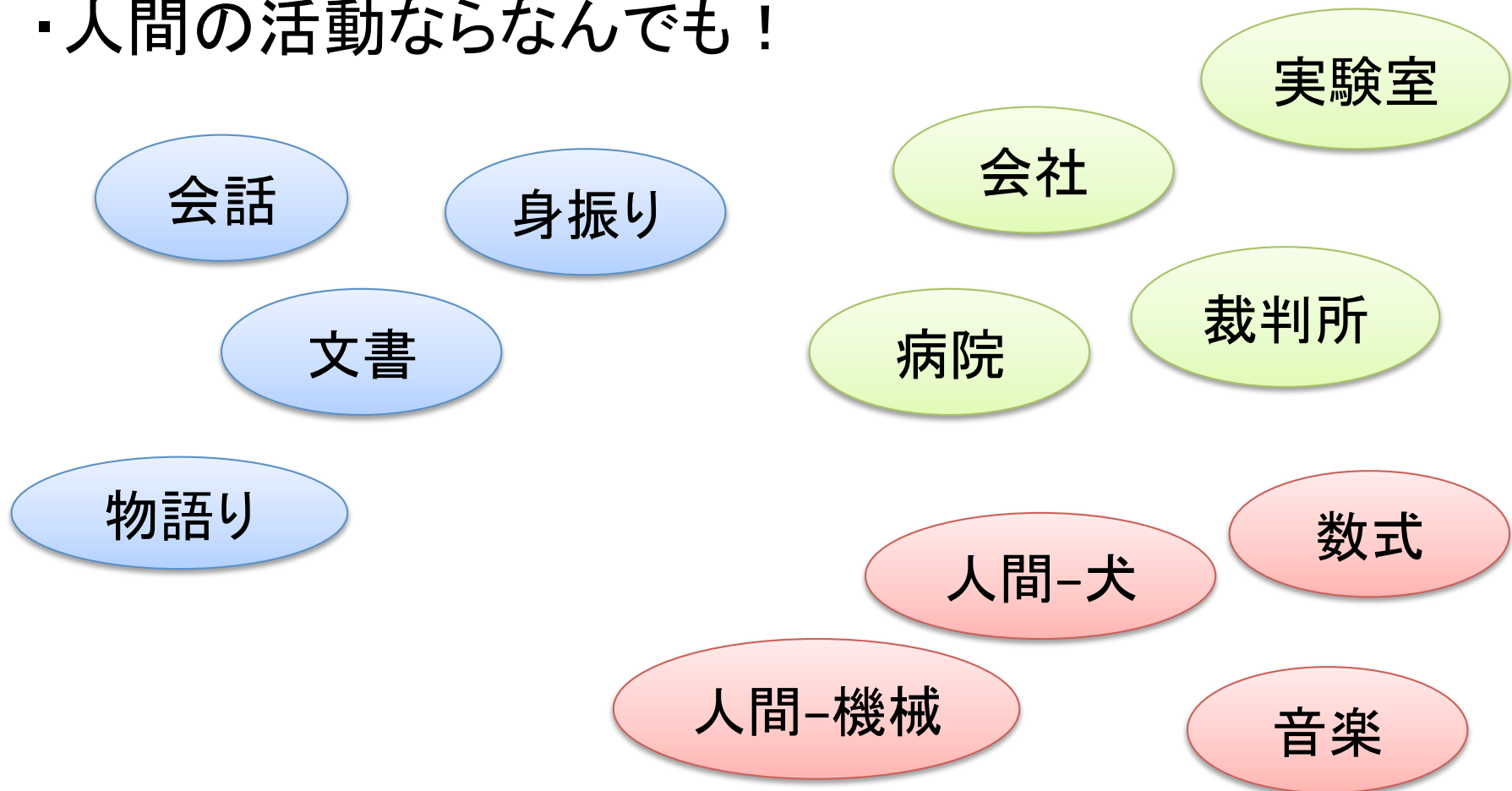
※人々の概念使用および概念の把握の仕方から、対象概念の連関 (= レリヴァンス) を記述する

- ・固有原理

- ・ふつう、方法論は研究者が用意するものだが、EMでは、それは人びとが日常生活のなかですでに用いているものだとする
EMには研究者が事前に用意するような類の「方法論」はない。

人びとが方法・方法論を用いているところ

- ・人間の活動のあるところならどこでも！
- ・人間の活動ならなんでも！



ハイブリッドな研究

- 人びとの活動あるところであれば、どこでも！
 - 人びとがそこで何をやっているのか(How)
- 領域横断的研究の実践

例

- with情報工学者

CSCW (Computer Supported Cooperative work)

CHI (Computer Human Interaction)

- 科学教育実践家

後述

...etc

失われた何か (missing what)

・転じて、科学コミュニケーションではどうか？

【目的は様々】

科学を語ること、科学について対話すること、社会と科学の関係について考えること、市民の役割について考えること、研究者が自身の専門性の社会的位置について考えること、そもそも科学とは何か、科学啓蒙、批判的STS...etc

【様々な活動が組織される一方で...】

科学コミュニケーションの場における「やり取り」は、科学コミュニケーション活動を評価する際のリソースではあったが、それ自体が研究のトピックではなかった？

→「やり取り」それ自体をリソースからトピックへ

※事後的なインタビューやアンケートによる評価や反省は、当日行われた「やり取り」をリソースに実施されているということ

科学コミュニケーションのエスノメソドロジー研究

- まだほとんどない？
- 実践報告やアンケート等による統計的手法を用いた研究が多い？

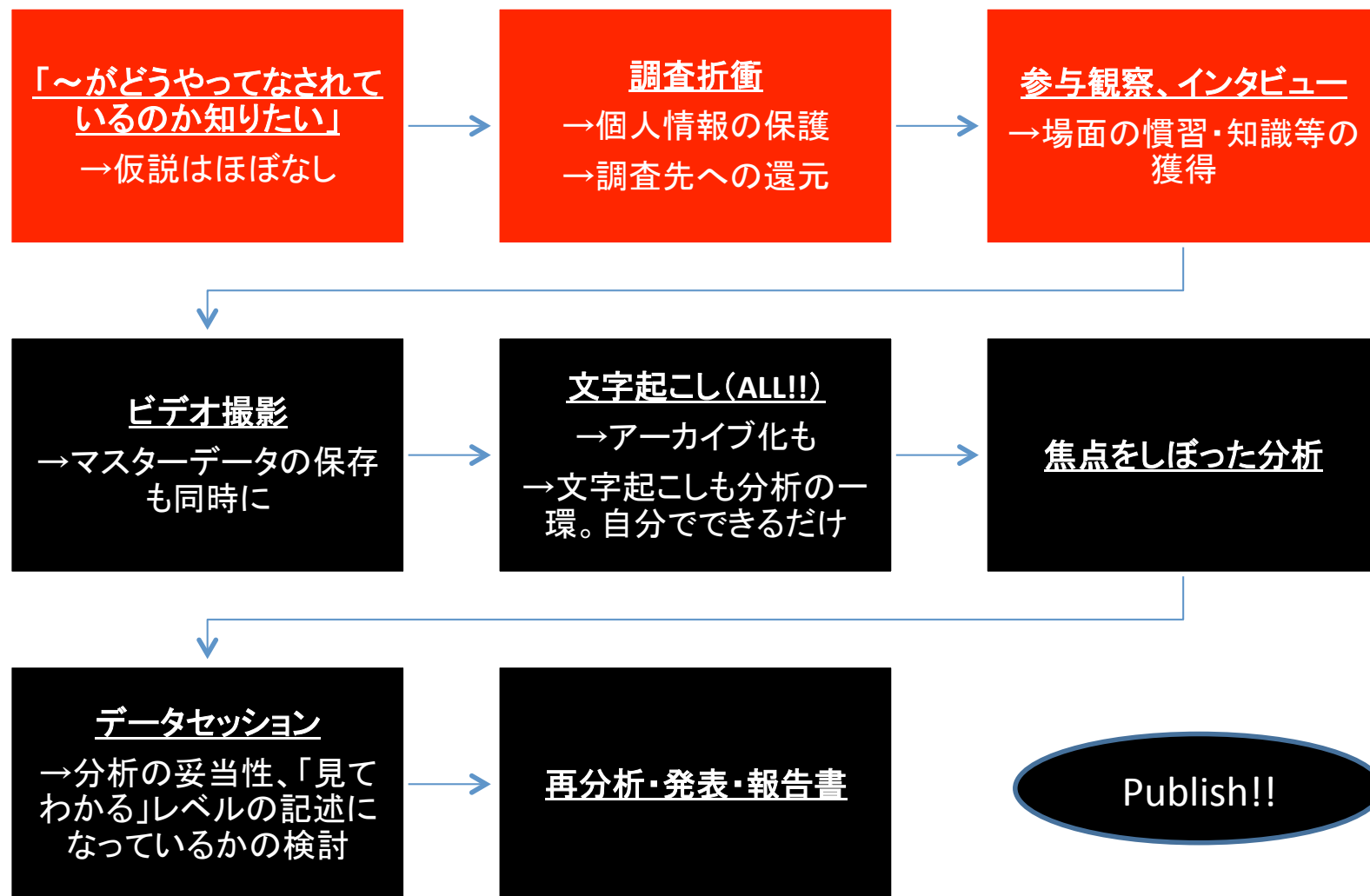
例：サイエンスカフェ

- 相互行為のなかの「科学的知識」
- 知識の多寡の示し方
- 理解の示し方
- インスクリプション
- ワークプレイス研究としてのサイエンス・カフェの運営研究

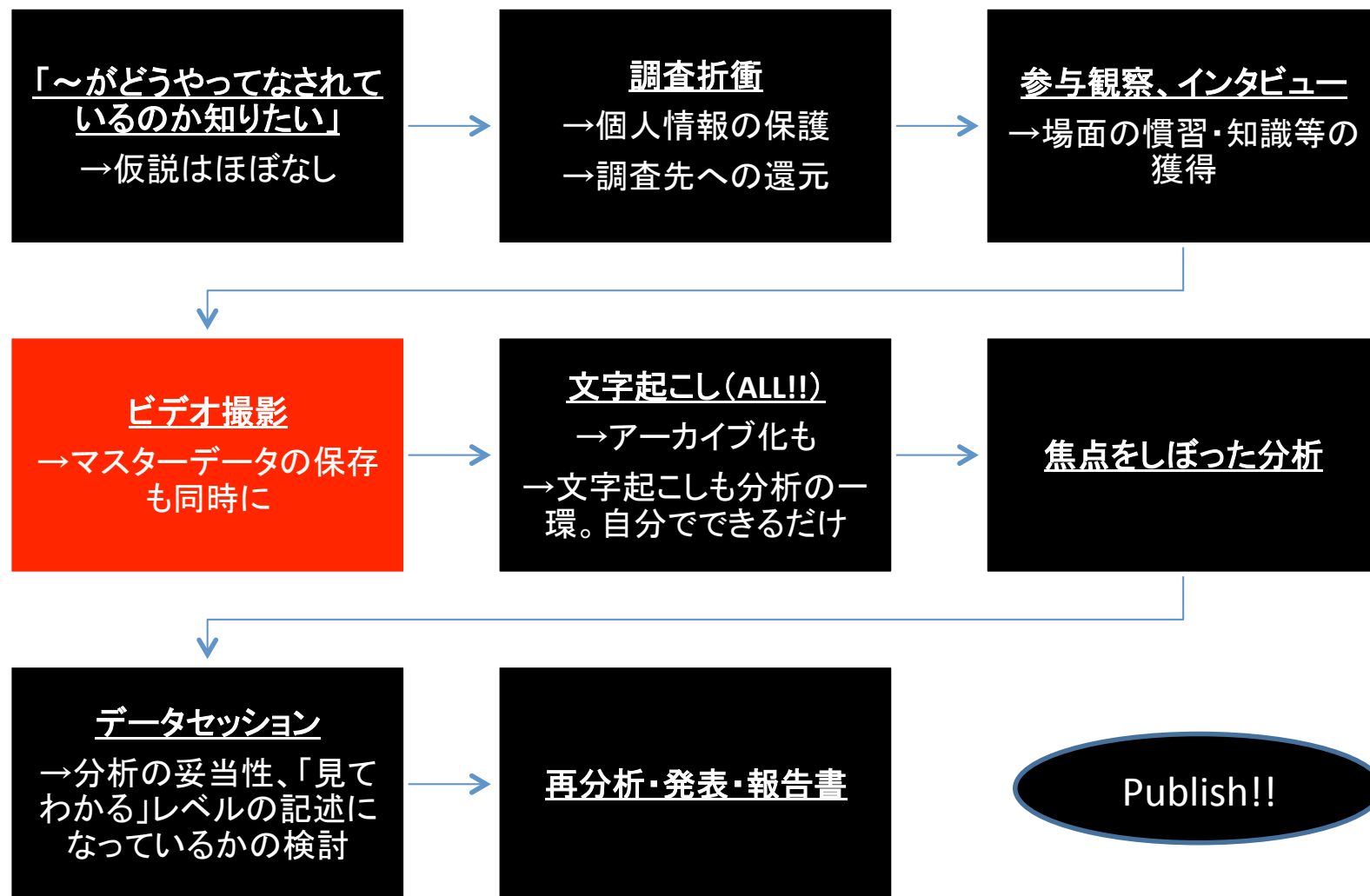
—————

高梨、加納、水町、元木(2012)双方向コミュニケーションでは誰が誰に話すのか？：サイエンスカフェにおける科学者のコミュニケーションスキルのビデオ分析, JJSC.

調査・分析のフロー（秋谷の場合）



調査・分析のフロー（秋谷の場合）



調査事例：ビジネスプランコンテストにおけるブラッシュ
アップ・ワークショップ

事例：道具を使いながら話し合う

会議における「紙」

Ex. 配布資料、ポストイット、メモ帳...etc

→オフィスのOA化

→しかし紙はなくならなかった(Sellen & Harper 2001=2007)

——現代的なオフィスの「散らかり具合」をざっと見ても、そこでのオフィスワーク実践における紙の浸透性や重要性ははっきりとしていることだろう。私たちはこのことをペーパーフルオフィスのパラドックスと呼ぼう。

(Frohlich & Perry 1994)

配布資料の“ローカルな歴史”

バーンズは、電子タイプライターのキーボードに向かって仕事をしているタイピストの両手をフレームに収めたビデオテープを録画した。このテープは、テキストをつくりながら声を出して「行っていること」の実況中継をしながら、キーボードに向かって仕事をするタイピストの手を記録している。タイプされた文書は、キャリッジにおかれた一枚の紙に明らかになっていくのが示される。その間、タイピストはキーを次々とたたき、文章の一節を削除し、再開し、次に何をすべきかを声に出して考えながら文字と文字の間で中断する。そのため、このビデオテープは理解可能な文書の特有な「ペア」をフレームにおさめている。(1)ためらいや解説が備わったタイピングの「リアルタイム」のビデオ映像のシークエンス、(2)リアルタイムのシークエンスから独立して読んだり、コピーしたり、分析することのできるタイプされたページ、である。

(Lynch 1993, 289-90)

配布資料の“ローカルな歴史”

完成した文書そのものは、そこに書かれた内容な文章の組み立て方から、「観念」「意図」「文法能力」といったものが分析的に見出すことを可能にするが、一方で、Burnsが記録したような、文書が産出されるローカルな歴史——つまり、「躊躇」や「中断」、「再考」といったワークを記録していない

→配布文書をめぐるやり取りのなかで、私たちはしばしば“ローカルな歴史”を引用する(ex. 説明の補足、言い訳、隠し玉「あえて書かなかったんですけど...」)

→参与者間で“ローカルな歴史”に対する知識や経験の非対称性がある？

→“ローカルな歴史”を引用することで、私たちは何をしているのか？

(事例)

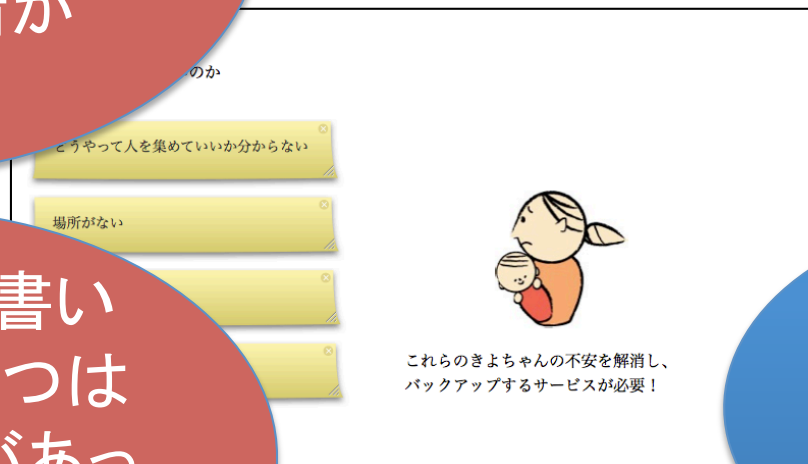
配布資料の内容について説明する
フェーズ

卓上の道具: 配布資料、メモ帳、議事録用PC、筆記用具。(卓上のモニターは使用されていない)

配布資料の“ローカルな歴史”

「ここ」にはこう書いてありますが、
こうなったのは
ちょっと事情が
あって...

「ここ」をこう書いた
意味は、じつは
●●な思いがあっ
て、それは自分た
ちには重要で...

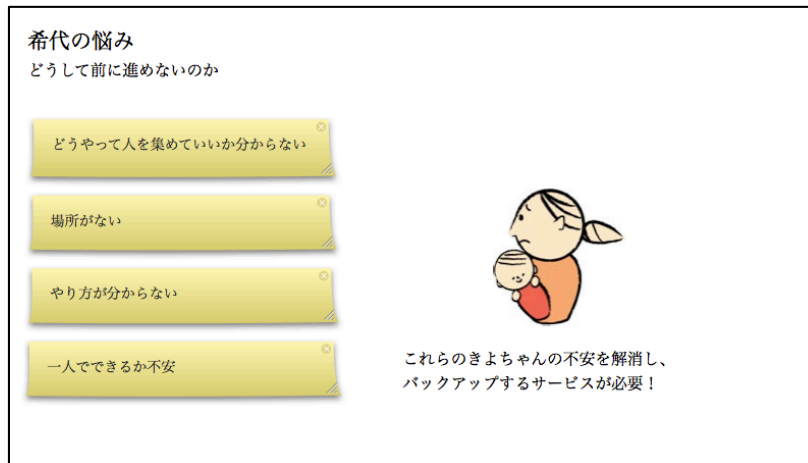


「これ」はな
に？

ちょっと「これ」
は無理がある
んじゃない
の？

配布資料

配布資料の“ローカルな歴史”

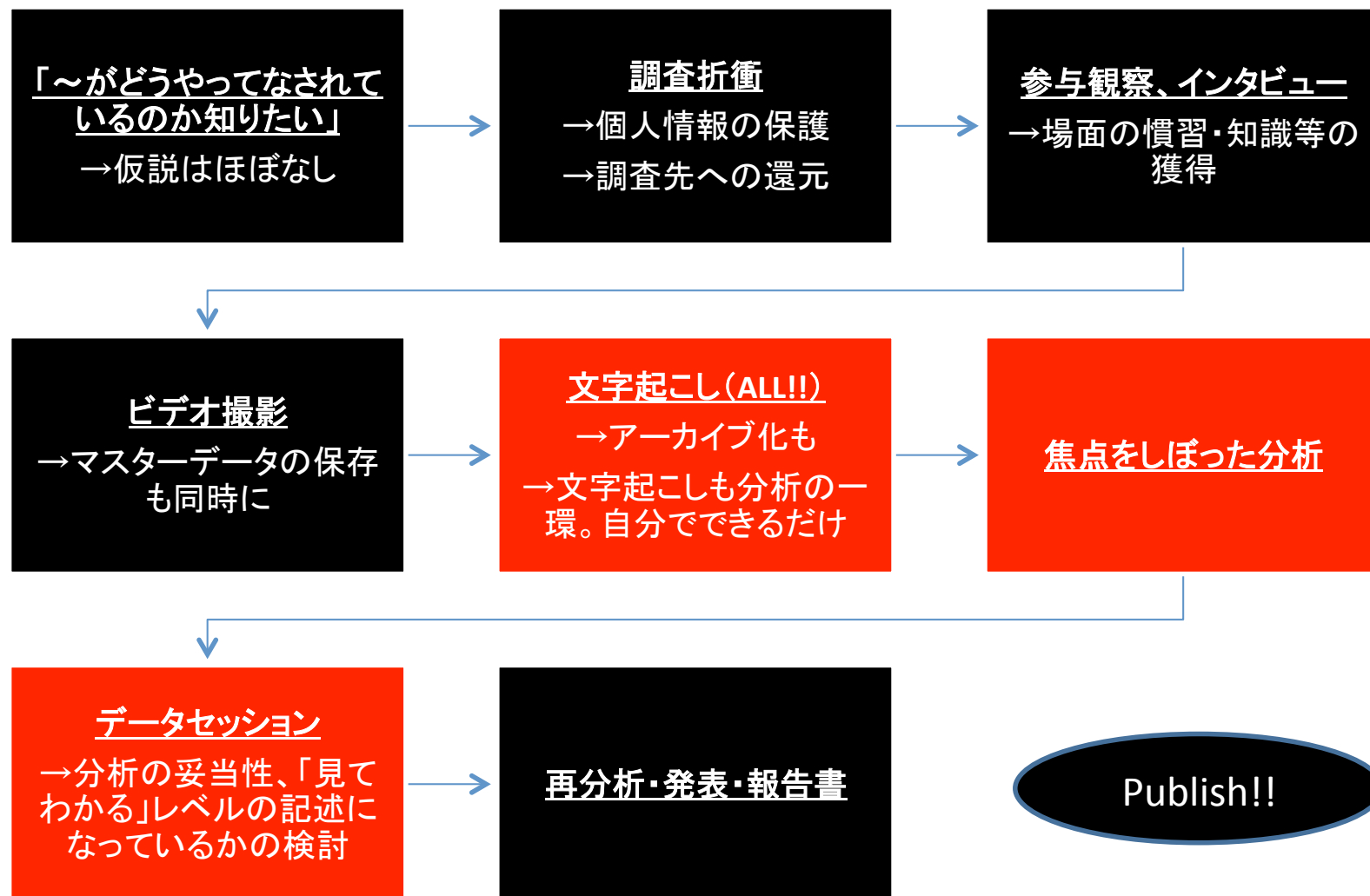


過去の自分たちを参照すること

配布資料

- ・過去との一貫性を主張することによって、それが自分たちにとって「重要である」ことを示すこと
 - ・「このときはこう書きましたけど」と言って、よりよいものへのアップデートの可能性を見出したことを示すこと
 - ・「これはあえて書きませんでしたけど」という卓越化
- これらのことは、配布資料のローカルな歴史を知らない者はいずれもアクセスできないこと
- Ex. エクスキューズ、一発逆転を狙うとき

調査・分析のフロー（秋谷の場合）



アウトプットの共有①

データセッション



Via Oskar Lindwall's data session : Network for the Analysis of Interaction and Learning (NAIL) at University of Gothenburg (http://www.lincs.gu.se/research_organisation/lincs_nail/)

アウトプットの共有①

データセッション

(1) **トランスクリプトの準備**

- ・インデックス性があるものが手元にあると、議論しやすい
- ・すでにそれだけでも分析可能な水準のもの

(2) 分析の照準

- ・データ提供者は、なぜこの断片をもってきたのかを説明できるように

(3) みんなで分析してみよう！

- ・参加者全員が見られるように、大きな画面にビデオデータを映す
- ・再生と巻き戻しを繰り返す
- ・30秒くらいのデータで2時間以上かかってしまうこともザラ



Via Oskar Lindwall' s data session : Network for the Analysis of Interaction and Learning (NAIL) at University of Gothenburg (http://www.lincs.gu.se/research_organisation/lincs_nail/)

Jefferson system

	(.)	Just noticeable pause
	(.3), (2.6)	Examples of timed pauses
	↑word, ↓word	Onset of noticeable pitch rise or fall (<i>can be difficult to use reliably</i>)
A:	word [word	Square brackets aligned across adjacent lines denote the start of overlapping talk. Some transcribers also use "]" brackets to show where the overlap stops
B:	[word	
	.hh, hh	in-breath (note the preceding fullstop) and out-breath respectively.
	wo(h)rd	(h) is a try at showing that the word has "laughter" bubbling within it
	wor-	A dash shows a sharp cut-off
	wo:rd	Colons show that the speaker has stretched the preceding sound.
	(words)	A guess at what might have been said if unclear
	()	Unclear talk. Some transcribers like to represent each syllable of unclear talk with a dash
A:	word=	The equals sign shows that there is no discernible pause between two speakers' turns or, if put between two sounds within a single speaker's turn, shows that they run together
B:	=word	
	<u>word</u> , WORD	Underlined sounds are louder, capitals louder still
	°word°	material between "degree signs" is quiet
	>word word< <word word>	Inwards arrows show faster speech, outward slower
	→	Analyst's signal of a significant line
	((sniff))	Transcriber's effort at representing something hard, or impossible, to write phonetically

トランスクリプトの作成

09 里見 150 (.) 150 (.) [150
10 幸田 [う：ん
11 蓮島 [150 円だったら安いよ [ね：
12 里見 [う：んうん
13 (1.0)
14 蓮島 150 円だったら買うよね [でもね
15 辻川 [うん
16 里見 う：[ん
17 幸田 [150 円なら安い [ね

ご参考：水川喜文(2001) 会話分析による録画記録の利用法：トランスクリプト作成の方法論, 北星女子短大紀要, Vol.37, pp77-84
([http://ci.nii.ac.jp/els/110006195069.pdf?](http://ci.nii.ac.jp/els/110006195069.pdf?id=ART0008167682&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1341206798&cp=)
[id=ART0008167682&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1341206798&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110006195069.pdf?id=ART0008167682&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1341206798&cp=))

アウトプットの共有①

データセッション

(1) トランスクリプトの準備

- ・インデックス性があるものが手元にあると、議論しやすい
- ・すでにそれだけでも分析可能な水準のもの

(2) 分析の照準

- ・データ提供者は、なぜこの断片をもってきたのかを説明できるように

(3) みんなで分析してみよう！

- ・参加者全員が見られるように、大きな画面にビデオデータを映す
- ・再生と巻き戻しを繰り返す
- ・30秒くらいのデータで2時間以上かかってしまうこともザラ



Via Oskar Lindwall's data session : Network for the Analysis of Interaction and Learning (NAIL) at University of Gothenburg (http://www.lincs.gu.se/research_organisation/lincs_nail/)

アウトプットの共有①

データセッション

(1)トランスクリプトの準備

- ・インデックス性があるものが手元にあると、議論しやすい
- ・すでにそれだけでも分析可能な水準のもの

(2)分析の照準

- ・データ提供者は、なぜこの断片をもってきたのかを説明できるように

(3)みんなで分析してみよう！

- ・参加者全員が見られるように、大きな画面にビデオデータを映す
- ・再生と巻き戻しを繰り返す
- ・30秒くらいのデータで2時間以上かかってしまうこともザラ



Via Oskar Lindwall' s data session : Network for the Analysis of Interaction and Learning (NAIL) at University of Gothenburg (http://www.lincs.gu.se/research_organisation/lincs_nail/)

アウトプットの共有②

...と、プロセスの共有へ

- ・結果のみを求める傾向（チップス？）

→アウトプットのための共有から、プロセスの共有へ

- ・「どのようなやり方でその場を組織しているのか」

→そこから見出されるのは、「あるある」だったり、「こんなことしてたんだなあ...」という自身の認識の変化だったり...

- ・そこからより適切な評価の変数を見出したり、活動の具体的な改善点を考えたりするのは別の仕事（分業！）。ただ、その仕事のリソース・リマインダーとして有用性がある

日本語で読めるオススメ教科書



前田泰樹他編(2009)
『ワードマップエスノメソドロジー』
新曜社

※ご参考
「立ち読みワードマップエスノメソドロジー」

<http://socio-logic.jp/ethnomethodology.php>

学習のロードマップ



前田他編『ワードマップエスノメソドロジー』新曜社



串田・好井編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社
→第1章「言葉を使うこと」



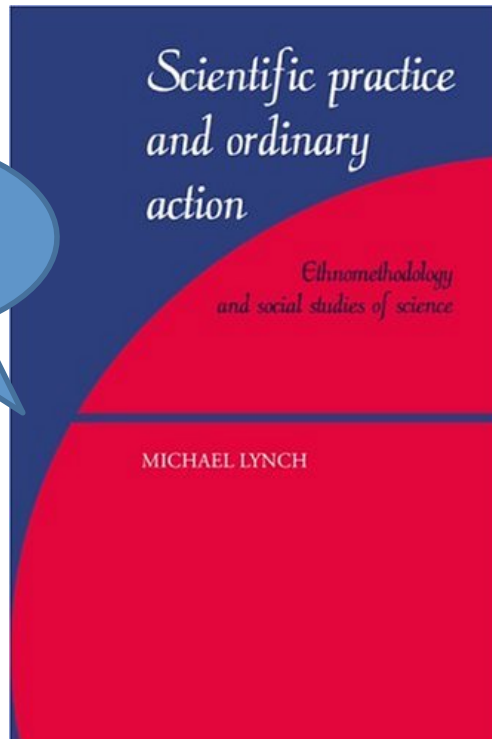
西阪仰『相互行為分析という視点』金子書房

※基本的な考え方を身につけたら、個別の調査論文を読みまくる

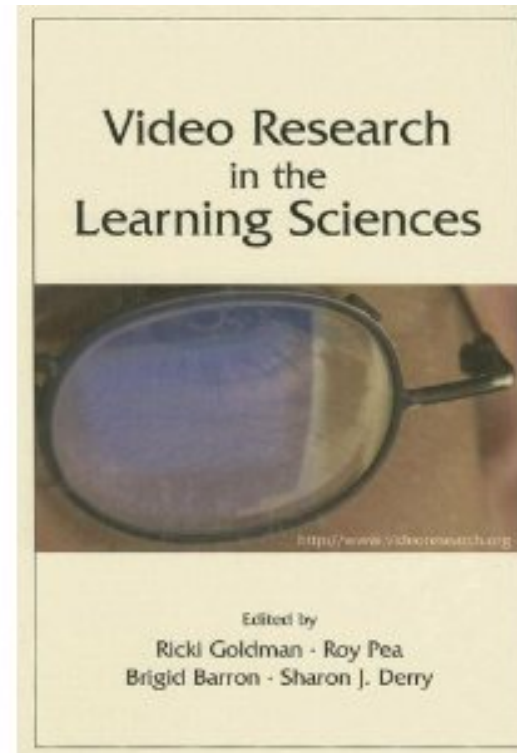
科学のエスノメソドロジー研究

「科学」のエスノメソドロジーはM.Lynchらを中心に取り組まれてきた
→STS、科学社会学、知識社会学の文脈(ex. サイエンスウォーズ)
Ex.実験室研究、科学教育...

今年ぐらい
に邦訳が出
る！

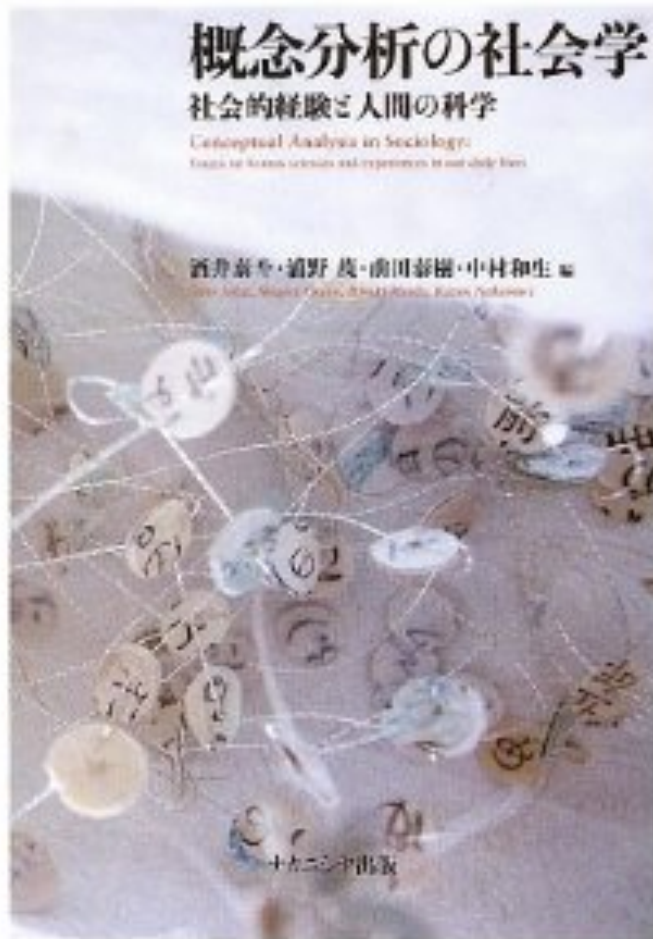


M. Lynch, 1993, Scientific practice and ordinary action



R. Goldman et al (edu), 2008, Video Research in the Learning Sciences

※エスノメソドロジーは「会話」のみを扱うものではない



酒井他編『概念分析の社会学』ナカニシヤ出版

「私たちが自らのあり方や自らの経験や行為を理解するときに用いている概念の用法を記述しよう」

紹介ページ

※立ち読み可能

<http://socio-logic.jp/ethnomethodology2.php>

ご参考: エスノメソドロジー・会話分析研究会

<http://emca.jp/>



The screenshot shows the homepage of the Japanese Association for Ethnomethodology and Conversation Analysis (emca.jp). The header includes the site name in Japanese and English, along with a Google Custom Search bar. The main content area features a vertical column of small, stylized character icons on the left and a central text block. Below this, there is a section titled 'エスノメソドロジー・会話分析研究会のご紹介' (Introduction to the Japanese Association for Ethnomethodology and Conversation Analysis) which contains a list of recent activities and updates. At the bottom, there is a link to a page with more information and related details.

エスノメソドロジー・会話分析研究会

emca.jp Japanese Association for Ethnomethodology and Conversation Analysis

エスノメソドロジー・会話分析研究会

emca.jp は、エスノメソドロジー・会話分析研究会の公式サイトです。当研究会の中心活動である 研究大会・研究例会 などの最新情報や、入会案内、過去の活動の記録、関連する研究会の情報などを掲載しています。今後、初学者向け紹介コンテンツも逐次掲載していく予定です。

■ モバイル版: <http://emca.jp/m>

エスノメソドロジー・会話分析研究会のご紹介

- エスノメソドロジー・会話分析研究会とは 2012/03/15 更新
 - 「非会員の方へ：オープンEMCAメーリングリストのご案内」を掲載しました。
- 研究会の活動 【本年度の大会・研究例会について】 2012/06/24 更新
 - 2012年度秋の研究大会（於 北星学園大学、2012年11月2日）のシンポジウムプログラムと自由報告募集要項を掲載しました。
- 過去の大会・研究例会の記録 2011/07/05 更新
- 入会のご案内 2012/03/15 更新
 - 「年会費納入方法のご案内」ページを作成しました。
- 研究会会員へのご連絡 @blog_emca

エスノメソドロジー・会話分析の紹介と関連情報

EMCAを学べる大学

エスノメソドロジー・会話分析研究会

Google™ Custom Search

 **emca.jp** Japanese Association for Ethnomethodology and Conversation Analysis

■EMCA研ホーム > もっと学びたいひとのための情報：エスノメソドロジー・会話分析を学べる大学

もっと学びたいひとのための情報 > EMCAを学べる大学

更新：2012年04月25日

ネットでシラバスなどにアクセスできる方を中心に、教育機関に所属する会員の 簡単なリストを作成しました。
ここに掲載しているすべての方が 毎年かならず EMCA関連の講義やゼミをやっているとは限りませんし、ここに掲載されていなくても教えていらっしゃる方は各地におられます。あくまで ひとつのガイドとして ご利用ください。（文責 五十嵐）

北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 中部 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄

北海道・東北

 **北星学園大学**
社会福祉学部

1. 水川 喜文（みずかわ よしふみ） | [教員紹介](#)
2. 理論社会学、社会学方法論、エスノメソドロジー・会話分析による社会的実践の研究 相互行為分析、カテゴリー分析
3. [『ワードマップ エスノメソドロジー』](#)
- 4.

各地のEMCAに関連する研究会

エスノメソドロジー・会話分析研究会

Google™ Custom Search

 **emca.jp** Japanese Association for Ethnomethodology and Conversation Analysis

■EMCA研ホーム > もっと学びたいひとのための情報：各地のエスノメソドロジー・会話分析に関連する研究会

もっと学びたいひとのための情報 > 各地のEMCAに関連する研究会

作成：2012年06月15日 | 更新：2012年06月16日

EMCA研究会会員が各地でおこなっている研究会のうち、比較的恒常的に開催されている研究会の情報を集めてみました。
そのほか、各種研究会の最新情報については [研究会blog](#) もご覧ください。（文責 五十嵐）

- 関連コンテンツ：[EMCAを学べる大学・大学院の紹介](#)
- 主な開催地
- 研究会名称
- 研究会主催者・連絡先
- 研究会概略
- 研究会WEBサイト
- 研究会開始年

北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 中部 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄

北海道・東北



↑ ページ先頭へ 

ビデオデータセッション

南保輔・秋谷直矩主催、月イチ、成城大学

https://sites.google.com/site/akiya0427/seijo_data

[Top](#) > [emca](#) >

ビデオデータセッション

・次回開催予定

第28回ビデオデータセッション

6月16日@成城大学

・発表予定者

南保輔（成城大学） 「「依存症者の失敗のストーリー（音声データ）」

小室允人（明治学院大学） 「即興劇における会話」

参加希望の方は秋谷（akiya0427[at]gmail.com）までご連絡ください。また、MLもありますので、そちらの参加を希望される方も気軽にご連絡ください。

本日のまとめ

- (1) 活動を評価する前に: 私たちは自分たちがやっていることを
どれだけ知っている? 言語化できる?
- (2) 実際にやっていることの「手続き」を記述していくことが一番
遠回りのように見えて近道(大変!)
→エスノメソドロジー研究へ
- (3) 組織活動のなかにEMCA研究の組み込み可能性
→Ex. データセッション

ご連絡は秋谷まで
akiya0427@gmail.com